

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4271600617		
法人名	有限会社グループホームゆうゆうてらわき		
事業所名	グループホームゆうゆうてらわき		
所在地	長崎県五島市岐宿町松山513番地1		
自己評価作成日	令和 元年 8月 8日	評価結果市町村受理日	令和元年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和元年9月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・力を入れている点～利用者様の健康管理、健康維持と事故防止。施設内の清掃清潔保持。</li> <li>・アピールしたい点。～* 職員が楽しく笑顔で働ける職場。(利用者様の笑顔につながっている)</li> <li>* 旬のもの、季節のものを食材とした食事提供</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当ホームは五島市岐宿町の田園風景が広がる自然豊かな場所にある。ホーム内は職員による清掃で清潔に保たれ、最近では共用部分をハウスクリーニング業者に依頼し汚れの除去とワックス処理などを行い、明るく清潔感のあるホームづくりができています。代表者は漁師もされており、旬で新鮮な魚と職員の手づくりの食事を入居者へ提供している。また、食器は入居者本人の使い慣れたものを使用し、時には買い物ツアーに行き外食をするなど、食事を楽しむことができるよう支援に取り組んでいる。管理者や職員間の関係性も良好で、職員からの相談事や要望などは互いに気軽に話し合える職場環境ができています。運営推進会議には地域の民生委員や近くの派出所の警察官が参加したり、会議と同日に消防訓練を実施してその様子を見てもらったりするなど、地域に向けてホームの取り組みを具体的に知ってもらえるよう努めている。敬老会などホーム行事の開催日には職員が出し物や仮装をするなど、明るい雰囲気づくりに繋げているホームである。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームゆうゆうてらわき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼では夜勤者から、日勤者への申し送りをを行い、出勤者全員での理念唱和します。その日の問題点、留意点などを話し合い、理念に基づく支援へ繋げて行きます。	ホーム理念は玄関に入ってすぐの目に着く場所に掲示している。職員は入居者を家族と捉え、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせるよう理念に基づいた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、(運動会、トライアスロン等)できる限り、利用者様数名での参加、応援に行くようにし、施設側の行事にも事前に参加のお知らせをさせていただき、近隣の一人暮らしの方にはお弁当などのお裾分けをしている。	職員は地域で開催されるトライアスロン大会開催時には入居者とともにコース脇より観戦し、本人の楽しみに繋げている。ホームには地域の小学生の訪問や中学生の職場体験を受け入れており、ホーム通路には小学生からのお礼の手紙が掲示されており、入居者が一緒に楽しむ様子が窺われる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には民生員の方3名が毎回出席して下さり、近隣の認知症の方の情報交換とともに、介護のアドバイスをしたり、他施設の情報を提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご家族をはじめ、民生員、市職員、地域の交番巡査、警察官など、多くの方が出席して下さり、五島全域の情報交換場が作れている。施設内の現状報告にも多様な意見もいただき、サービスへと繋げている。	運営推進会議には3名の民生委員並びに近くの派出所の警察官などが参加している。会議では職員紹介や取り組み等を報告し、ホームのことを知ってもらえるよう努めている。また、話し合った議題の中で重要と思われる事項については出席できなかった家族へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業運営にあたり、必要な提出書類や、不明な点、等、小さいところまで、市の長寿介護課や、福祉課等を訪れ、お話を伺うようにしている。今年1月の市の実施指導ではたくさんの方の指導・アドバイスをいただきました。	ホームは市との連携を常に図るよう努めており、不明な点が生じた際にはすぐに相談し、指導や助言があった際には改善するよう取り組んでいる。また、認知症カフェの参加依頼があった際には家族や職員に参加を促している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議、社内研修等定期的に身体拘束について話し合い、身体拘束の必要性、また、その弊害、グレーゾーンなどのについても毎回、確認している。	ホームでは身体拘束に関するマニュアルを整備するとともに、年に3~4回の社内研修を実施している。どのような行為が身体拘束にあたるのか職員が話し合う機会を持ち、身体拘束をしない介護の実践に努めている。また、研修実施の記録も残している。	ホームでは身体拘束をしない介護を実践し、その取り組み内容を運営推進会議にて報告している。更に運営の透明性が図れるよう身体拘束適正化検討委員会の位置付けを明確にすることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに、虐待についても同時に話し合っている。認知症への職員の知識を深めること、ストレスがたまらないよう職員間でのミーティング、談話の時間を重要としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	携わる機会がなく、認識不足ですが、昨年一人の利用者の方が成年後見制度適用となりましたので、制度の必要性や制度利用までの流れなど勉強させていただきました。今後も必要に応じ、制度を活用できるようにしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望時、契約時は、当事業所の重要事項説明書を基に詳細に説明し納得を得るようにしています。変更や改定の場合も十分な説明をし、ご理解納得いただいた上での実施とさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時は職員は必ず現状報告をさせていただきます、ご意見や要望をお聞きます。ケアマネージャーは定期にご家族に電話連絡、文書などで意向をお聞きし、全職員で共有し、支援につなげています。	職員は入居者毎に担当制となっているが、家族訪問時にはどの職員でも対応できるよう互いに情報を共有している。また、定期的に家族への電話連絡を行い、入居者の様子や入居者との何気ない会話から得た新しい気付きなどを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を取り入れ「笑顔で楽しく働ける職場」づくりを目指している。代表、管理者、ともに職員とのコミュニケーションを図っている。	代表者は職員からの意見を積極的に聞くよう努め、職員にとって働きやすい職場環境となるよう考慮している。管理者は休憩時間に職員同士がゆっくりと会話できるよう配慮するとともに、職員の意見に耳を傾け取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表、管理者は、職員個々に、勤務への思いや、勤務状況を把握しており、個々に相談を受けるようにしている。働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員個々に声掛けを怠らず、やる気、力量を把握し、研修への参加、資格試験受験へのアドバイス、援助を考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勤務状況に応じ、できるだけ多く勉強会、研修参加を呼びかけている。ケアマネージャーは事例検討会に毎回参加し、その内容を施設職員間で共有し、支援につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活歴、家族歴等、基本情報を重視。利用者様、その方を知ることから始めます。家族の一員として共に生活していくことを念頭に、信頼関係を築いていきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のこれまでの大変な思い、また、これからの不安を十分に受け入れ、ご家族が安心できるよう、いろいろな面からお話をお聞きしていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談、相談の際、利用者様にとって、ご家族にとって、今、どのような方法が一番いいか、を納得いくまで話し合います。ほかの施設、他のサービス利用も提案することもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と、お世話する職員という関係でなく、家族です。母であり、姉であり妹であり、職員も同じです。ここに住む人、働く人、すべてが家族です。叱り、叱られ、泣いて、笑って…常に人生の大先輩であるという尊敬の気持ちは忘れずに。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況を、隠さず報告し、ご家族からお話をお聞きすることで新たな対応法を発見。ご家族の思い、本人さんの思いを大切に、支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外でも同級生、知人や、親せきの方からの電話にはいつでも本人さんとお話していただき、面会も随時受け付けています。面会時はお茶、お菓子をお出しし、自室でゆっくり楽しんでいただいています。	職員は家族や知人の面会の際に手土産を持参される方に配慮し、フロアや居室で入居者とゆっくと会話ができるようにしている。敬老会やバーベキュー大会など行事を開催する際には家族へ参加を促し、入居者とともに楽しい時間が過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションでは、それぞれが、自分の話、意見などを発言できるような雰囲気づくりに努めています。ホールで一緒にテレビを観たり、洗濯物意をたたんだり、カラオケを楽しんだりしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、入院先にお見舞いに伺ったり、ご家族にお会いしたら、現状のお話、相談などをお聞きしたりします。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の観察を重視するとともに、多くかかわっていくことで、本人さんの真の意向を理解できるよう、また、意向に沿えるよう、努めている。	入居者の各担当職員が普段の様子を把握し業務日誌や申し送りノートに記録するとともに、他の職員も様子を把握できるよう情報共有し日々の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴や、今の関わりで、利用者様を知るようにしています。何が好きで何が嫌いで、どのように暮らしていたのか、どのような悲しみや辛さがあったのか……。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方をよく観察し、顔色・表情の変化、身体の異常に早く気付くように努めている。笑顔で活気のある生活ができるように、通常の様子観察を重視している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろから、関わりを多くすることで、新しいこと(言動)を見つけます。それを職員間で情報交換し、また、ご家族からも意見や、要望をお聞きし、毎月のカンファレンスで話し合い、ケアプラン作成・支援にと反映している。	ホームでは各入居者の個人記録に短期目標を掲げ、目標に向けた支援に取り組んでいる。入居者に変化が生じた際には2ヶ月や4ヶ月など短期間での計画を立案・計画を実施し、見直しを行っている。看取りを希望する場合には介護計画に支援内容を記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルには、その日の生活様子を記録。変化や気づきも記録し、職員間で共有している。記録はわかりやすく、そのままの状況を記録するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院時は、本人さんが気分がすぐれないときは代理受診とし、ご家族にその旨報告させていただく。面会希望のご家族の送迎もさせていただくこともあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員、地区の区長さん、地域の住民の方とは日ごろから交流を深めている。利用者の方が近隣を散歩する際は、暖かく見守っていただいています。野菜や果物をいただくこともあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人さん、ご家族のご希望のかかりつけ医を受診します。協力医の山内診療所とは契約のもと、24時間体制を整えています。	ホームでは24時間体制の協力医と連携するとともに、週1回訪問看護の来訪があり入居者や家族にとって安心感に繋がっている。専門医などのかかりつけ以外の受診については、家族または必要に応じて職員が同行し、家族への連絡も細やかに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員が利用者様の言動、表情体調面の変化に早期に気付くよう、観察重視している。職員は早期に管理者、ケアマネ、看護師に報告し、支持を受ける。適切な対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、詳細な介護サマリーを医療機関に提供し、治療、看護計画予定などをお聞きします。随時、治療、病状の経過をお聞きし、ご家族に報告。退院時は注意点などの支持をいただきます。退院後のケアプランを医療機関に提供することもあります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、「重度化した場合の対応」「看取り」について説明させていただきます。当事業所で「できること」「できないこと」を十分に理解していただきます。緊急時の対応法や、連絡法についてもお話させていただきます。	ホームでの看取り支援を希望する家族には医師を交えて説明する機会を設けている。ホームでは数年前にも看取り介護を実施している。職員は研修に参加して看取りの事例を収集し、ホームで対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応法や、連絡網、救急要請法など、適宜に勉強している。怪我や、転倒・体調変化時の対応処置法についても社内研修で定期的に勉強し、夜間一人体制でも落ち着いた対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防訓練を年に2回、災害時(地震・台風)訓練を年1回実施している。内一回は運営推進会議と同時進行で、交番署巡查、民生委員にも訓練に参加していただいている。定期の点検実施と職員間では火のもと注意と巡視確認を徹底している。	ホームでは消防訓練を運営推進会議開催に併せて実施することで、会議の参加者にも訓練の様子を知ってもらえるよう取り組んでいる。管理者はハザードマップにてホーム裏山が危険箇所であることを把握しており、災害時の対応についても検討している。また、避難場所にも足を運び確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、また、その方のプライバシーを尊重しつつ、親しみやすい方言での会話、声掛けに心がけている。	職員は入居者に言葉を掛ける際に親や兄弟姉妹と話すように親しみながらも節度ある対応となるよう努めている。管理者は職員に対して大きな声で話し掛けないよう指導を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様の誕生日会には、食べたいもの、欲しいものなどをお聞きし、それに沿うものを提供させていただく。日常の会話の中でも、今のお気持ち、要望などを発しやすいような雰囲気を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で自由にのんびり過ごす時間、またホールで他者や職員と談話の時間があり、会話の中で、本人さんの意向などが、聞けるような対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際は、本人さんに衣類を選んでいただき、整容時は、鏡の前で、見守り、お手伝いをさせていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル準備や、食後のテーブル拭きなどをしていただいています。食前には皆さんが手を合わせ、担当職員がメニュー、食材の説明をし、「いただきます」と皆さんで言って食事開始です。春にはツワ、フキなどの皮むきを皆さんでしていただきます	食事は漁師である代表者が獲った新鮮な魚や近所の方からいただいた旬の野菜を提供しており、キザミ食やトロミ食など入居者の状態に応じた食事形態となっている。ホームではワックス掛けに合わせて外食する機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ナトリウム低下気味の方には、塩分多めに、血圧高めの方には塩分減で提供など、その方に応じた、食事内容、食事形態に心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には服薬前に必ず口腔ケアをしていただいています。口腔内の痛みや違和感などがないかお聞きしています。職員は見守りをし、必要時は一部介助をしています。緑茶使用で風邪予防にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時に排泄の声掛けをし、できるだけトイレでの排泄ができるようにしている。排泄チェック表にて各利用者様の排泄パターンを把握している。	ホームでは排泄チェック表に入居者それぞれの排泄状況を記録している。入居者によっては布や紙のパンツを使用し、適宜トイレ誘導をすることで尿取りパットの使用を減らすよう配慮している。排泄を失敗をした方にも職員がさりげない言葉掛けを行い、本人の自尊心を損なわないよう支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便確認をし、水分補給や、適度の運動の声掛けをしたり、腹満状況により、緩下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定で体調確認し、自立、一部介助、見守りなど、それぞれに応じた支援をしています。希望時は、いつでも入浴、シャワー浴ができるような体制を整えています。	ホームでは基本的に午前に入浴を行っている。入浴を拒否する方については職員が言葉掛けを工夫するなどし対応している。職員は入居者が浴槽に入って寛げるよう支援し、毎日の入浴を希望する方にも希望に沿うよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後など、適度な仮眠をとる方もいます。夜間も良眠できるよう、寝具の清潔、布団干しなどをさせていただき、室内の温度調節にも心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬管理表により、服薬中の薬の効能や副作用について把握している。薬変更時は、連絡ノート・口頭により、全職員が把握・確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル準備をしてくださる方、洗濯物をきれいにたたんで下さる方、草取りをしてくださったり、その方に応じたことをお願いしたりします。自室では本を読んだり書き物をされる方もおられます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調をみながら、ドライブに行ったり、近隣を散歩したり、時には買い物・外食ツアーを実施している。	ホームでは買い物ツアーを実施したり、無人販売がある場所で買い物をしたりするなど、お金を使うことを楽しめるよう支援している。日頃より近隣で散歩をしたり、玄関横に設置しているベンチでは数名の入居者が日光浴を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失防止、トラブル防止の為、金銭所持はご遠慮いただいておりますが、必要時はいつでも、お渡しできるようにしています。買い物ツアー時は、購入したものはご自分でレジで支払いさせていただきます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を書いていただいたり、手紙を出される方には便箋・封筒・切手を準備いたします。希望があれば、いつでも電話をかけ、お話しできるようにしています。かかってきた電話にも本人さんの体調を伺いながら、お話をさせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室では、ソファーや畳に座り、テレビを観たり、新聞を読んだり、春には職員が撮ってきたツツやフキの山菜を皆さんがホールに集まり、選別してくださいます。毎日の掃除、季節の花を飾るなど、気持ち良い空間を心がけています。トイレや浴室の清掃、香りなどにも心がけています。	ホームでは最近共用部分の床をハウスクリーニング業者に依頼し、汚れの除去とワックス処理を行い清潔保持に努めている。畳の間に設置されたテレビとソファでは入居者がゆっくりと寛ぐ姿が窺える。また、ホール壁面には入居者とともに飾り付けた季節毎の装飾が施され、入居者の日頃の様子が収められた写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、和室、玄関前のベンチなど、それぞれが、会話、談話を楽しんで、気分転換が図れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人さんの意向に沿ったものを設置し、安全で清潔で過ごしやすいようにしています。ご希望に応じ家族の写真ご自分の写真を展示させていただいております。	居室には入居者が今まで自宅で使用していた馴染みの物を持参している。入居者の中には趣味の大正琴や、手芸が好きな方は裁縫道具を持って来るなど、入居者の個性ある居室づくりの支援がなされていることが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態や希望に応じ、ベッド、ポータブルトイレテレビ、家具等の設置を考慮しています。安全で快適に過ごしていただくよう、職員間で情報交換をしています。		